

■フローリングの性能

フローリングは、再生産の可能な地球にやさしい天然資材である木材を主体として作られた建築資材であり、木材の持つ良い性質を大切に加工してあります。従ってフローリングには次のような優れた長所があります。

- ・湿気を吸収・放出する湿度調節作用がある。
- ・熱伝導率が低く断熱性に優れている。
- ・肌触りがソフトで木目は自然美にあふれ、色調も豊富で工芸的美しさをもっている。
- ・ダニやカビが発生しにくく、紫外線を吸収し、光を乱反射するので衛生的、健康的である。

こうした良い性質があるため、手近で優れた建築材料として利用されてまいりましたが、反面天然素材であるための短所も持っています。

- ・湿気を吸うと膨張し、乾燥すると収縮する。
- ・湿潤な状態では腐りやすい。
- ・燃えやすい。
- ・色・木目が完全には揃わない。

木材のもっている基本的な性質で、利用する際短所となる点は、加工技術や科学薬剤処理によって改良に努めていますが、まったく排除することはできませんし、強く押し進めれば木材の長所も失われる恐れがありますし、薬剤などを多く使えば人にも害を与えるようになります。フローリングを使用される方々は、材料である木材の性質をよく知っていただき、快適な状態を維持できるように、日常のお手入れなどに気配りをお願いいたします。

■紫外線対策

- ・天然木フローリングは直接日光の紫外線や照明器具により変色することがあります。
- ・太陽光の直射はカーテンやブラインドなどで遮ってください。
- ・置敷カーペットによっても色違いが目立つようになる場合があります。

■水濡対策

- ・木質フローリングは水気を嫌います。長時間濡れたままにしておくと、膨張・ひび割れやシミ・変色のもとになりますので、速やかに拭き取ってください。
- ・観葉植物などの鉢には必ず水受け用の皿などを敷いてください。
- ・台所や洗面所周辺など、水が飛び散るおそれのある場所ではマットを敷いて床材を保護してください。
- ・水切りマットの取替えも頻繁に行ってください。

■家具等の設置・移動

- ・家具等の重量物を移動・搬入する場合や、キャスター付の台車等を移動する場合は、フローリング上を養生するなどして、へこみやキズに十分注意してください。
- ・椅子やテーブルの脚部には市販のフェルト製クッション材を貼り付けることで、キズやへこみ防止に役立ちます。
- ・ワックスをかけてカーペットや絨毯等を引いた場合、カーペットや絨毯等の裏に加工してあるラテックスが、ワックスと反応して艶が無くなったり、白化現象を起こす場合があります。

■隙間について

- ・木には空気中の湿度が高いと湿気を吸収して伸び、乾燥してくると湿気をはきだして縮む性質があります。これは生き物である木材を使用している以上やむを得ない現象です。乾燥時に生じる隙間に硬い詰め物をしないでください。

■床鳴りについて

- ・音の程度にもよりますが、フローリングの継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは、木の性質としての調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので、やむを得ない現象です。商品の性能、使用上特に問題はありません。その他、水をこぼして長時間放置した場合や、水気の多いお手入れをされた場合などでもおこりますので正しいお手入れ方法をお勧めします。

床暖房について

■施工上のご注意

- ・床暖房は、各床暖房メーカーの施工要領書に従って正しく施工してください。
- ・コンクリート・モルタル埋設型の床暖房システムは、施工前に必ず試運転を行い、下地を十分に乾燥させてください。
- ・床暖房により床材が暖められると、床材は収縮します。施工する際は湿度の高い時期を想定し、地域環境などを考慮して寸法をとってください。

■床暖房使用時のご注意

- ・温度の上げすぎには気をつけてください。身体に害を及ぼすだけでなく、床暖房設備そのものの故障の原因やフローリングに悪影響を及ぼす場合があります。床表面温度は25℃～27℃に維持し、室内の湿度を50～60%以上に保ってください。
(冬場などの乾燥時期は加湿器の併用をお勧めします。)
- ・床暖房中、床面に長時間接してありますと低温やけどが発生する恐れがあります。お子様（特に乳幼児）や体の不自由な方には周囲の方が十分に注意してあげてください。
- ・床暖房時、衣類の乾燥などの目的で使用しないでください。
- ・高温になる器具（低床吹出しファンヒーターや電気カーペットなど）と併用して床暖房のご使用は避けてください。床表面がひび割れたり、継ぎ目に隙間ができる恐れがあります。
- ・ピアノなど極端に重いものや、布団・じゅうたん、床面の広い家具、床面との隙間が極端に狭い家具など、放熱に妨げになるようなものを床暖房を施工したフローリングの上に置かないで下さい。熱がこもる原因となります。また、熱により家具や調度品などにひずみやくるいが生じます。特に重量物は床暖房設備が破損したり、ピアノでは音が狂うことがあります。
- ・暖房した床面にカーペットを敷かないでください。熱がこもって床面が傷みます。
- ・床暖房使用期間中は低温での連続運転をお願いいたします。

